

1. 略歴

- 1988年3月 東京大学文学部国文学専修課程卒業
1988年4月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学修士課程入学
1991年3月 同 修了
1991年4月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学博士課程進学
1996年3月 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学
専門分野博士課程単位取得退学
1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学
専門分野研究生（～1997年3月）
1998年4月 博士（文学）学位取得（東京大学）
東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士課程修了
1998年4月 関西学院大学文学部専任講師
2002年4月 関西学院大学文学部助教授（2007年4月より准教授）
2008年4月 関西学院大学文学部教授
2013年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2017年4月 同 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

平安文学、源氏物語

b 研究課題

源氏物語は、平安前期に成立した長編物語・歌物語・和歌の発想を基盤とし、日記文学・漢詩文・史実等を貪婪に吸収して成立したと思われる。そこに到りつくまでの文学史的な動態、及び、源氏物語それ自体の構造や表現の分析を主な研究課題としており、初期の成果は『源氏物語の思考』（風間書房、2002年、第五回紫式部学術賞受賞）にまとめた。また平安時代の人々の思考や発想の形式にも関心を寄せており、和歌の贈答の分析を通じた意思伝達の呼吸などについて、『女から詠む歌 源氏物語の贈答歌』（青簡舎、2008年）に提案、これまでの成果は『源氏物語再考 長編化の方法と物語の深化』（岩波書店、2017年）にまとめた。そのほか、研究成果を一般の人々に分かりやすく伝える仕事として、瀬戸内寂聴訳源氏物語の注釈等の執筆のほか『男読み 源氏物語』（朝日新書、2008年）、『コレクション日本歌人選 和泉式部』（笠間書院、2011年）、『平安文学でわかる恋の法則』（ちくまプリマー新書、2011年）等の一般書も手掛けている。

c 概要と自己評価

昨今の源氏物語研究がともすると作品の周辺の歴史的事実や享受史的な事実などの解明に偏りがちである現状を憂慮し、物語そのものを論じるために、これまでの方法論的成果をより発展的に次世代へと継承することが喫緊の課題であると考えている。今期は作品分析の方法論的な関心や思考形式についてのいくつかの論考を核として、論文集『源氏物語再考 長編化の方法と物語の深化』をまとめた。現在は、三角洋一氏が遺した『風葉和歌集』（和歌文学大系、明治書院、2019年刊行予定）の注釈や解説の補完に尽力する一方、個別の研究課題を開拓しつつある。同時に、若い院生たちが今後の平安文学研究を領導できるように、彼らとともに学会活動を展開している。

d 主要業績

(1) 著書

高木和子、『源氏物語再考 長編化の方法と物語の深化』岩波書店、2017.7、440頁

(2) 論文

高木和子、「「～顔なり」の表現について 『源氏物語』の例を中心に」、『日本語学』、36-1、p.44-51、2017.1

(3) 書評

高木和子、角田光代、『源氏物語 上』、河出書房新社、『群像』、72-12、264-265頁、2017.12

(4) 解説

高木和子、「青海波を舞う光源氏」、『国立劇場 第八二回雅楽公演 管絃 青海波を聴く』、8-9頁、2017.11

(5) 啓蒙

熊野純彦、野崎敏、菊池達也、勝田俊輔、高木和子、佐藤健二、「文（テキスト）の学とは何か」、『東京大学ホーム
カミングデイ 文学部企画』、2017.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

特別講演、源氏物語アカデミー（於、福井県越前市）、「紫式部日記」と「紫式部集」、2017.10

(2) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

中古文学会、常任委員・編集委員、2015.6～

紫式部学会、理事、2015.7～

紫式部顕彰会紫式部学術賞審査委員、2016.6～